<<前のページへ戻る

２０１５年７月２９日～８月２日、和歌山県紀三井寺陸上競技場にて全国高校総体（インターハイ）が行われました。本校からの出場者は昨年同様、４００ｍの尾﨑正大選手（高３）と走高跳の石川遼選手（高３）の２名。南関東大会はいずれも６位通過でしたが、実力的には全国でも通用する力はありましたので、自己ベスト更新と決勝進出、表彰台も意識して挑んだ大会でありました。

結果は周知のとおりですが、試合を終えた表情は、対照的な二人となってしまいました。本人たちのコメントにもあるように、尾﨑選手は自己ベストを更新することができ、力を出し切れたようですが、石川選手はまさかの記録なしに、試合後しばらくは呆然としている様子でありました。

高校最後の大会となった今大会は、二人の選手にとって対照的な感情を残して終わってしまいましたが、ここに至るまでに二人の残した功績は、本校陸上競技部にとっては多大なものがありました。まず、尾﨑選手は高校から本校に入学し、１年次よりチームのエースとして活躍してくれました。特に、彼が更新した４００ｍの桐朋記録は走幅跳と並び最古となる１９８４年のものであり（ちなみに両種目とも鈴木英穂氏の記録）、そこから１秒以上も更新し、４７秒台まで記録を引き上げてくれました。また、しばらくは更新するのは難しいと思えた４×４００ｍリレーの記録の更新にも大きく貢献してくれたことは言うまでもありません。また、石川選手については、まずは中学での衝撃的な全国優勝になります。各方面から多くの賛辞をいただきました。あれから３年間、必ずしも順調に成長できたわけではありませんが、それでも毎年自己ベストを更新し続け、現段階での自己ベストは２ｍ０６にとどまってしまいましたが、ジャンパーとしてはまだまだ可能性を感じさせる資質があります。こんな２人に共通していることは、自身の競技に真摯に取り組むことは当然ですが、それだけではなく周囲を巻き込むことができる人物であったという点でしょう。個人競技の陸上競技ですが、日々の活動の充実度合は、やはりチームとしての雰囲気に依るところが大となります。まだまだ課題は多く、力不足の陸上競技部ではありますが、２人は記録や結果のみではなく、日々の活動の中でチーム全体に大きく貢献してくれました。

最後に私的なことになりますが、インターハイを終え３か月が過ぎようとしていますが、当ホームページ上でのご報告が遅れたことをお詫びいたします。ただの言い訳だし、そんなことではいけないのですが、石川選手の決勝記録なしのダメージは指導者にも思いのほか大きく、この間、きちんとインターハイを振り返ることができずにおりました。これまでであれば、どんなに結果が悪くとも、そこから課題を見出し、次へつなげていくという整理ができたのですが、今回は（あくまでも高校生段階での）最後の試合となったわけであり、次へつなげられないもどかしさを痛感しております。次があるということは、こんなにも大きな意味をもつのだと、改めて気づかされています。良い時も悪い時もあるのが常ですが、いつかは最後がくることを自覚した上で、日々の活動、一試合一試合と向き合いたいと感じています。

尾﨑　正大

桐朋高校陸上部３年の尾﨑です。僕と石川のインターハイが終わったことで、高３は全員引退し、陸上部での戦いの幕を閉じました。いつかは来ると覚悟はしていましたが、実際全員引退となると、やはり自分の中でも少なからず寂しさがあります。

高校最後の試合となったインターハイで初めての４７秒台を出せたのは本当に満足しています。準決勝は４９秒台と散々たタイムを出してしまい、もちろん悔しさもありました。ただ、納得もしています。インターハイまで一度も４７秒台を出したことがなかった自分にとっては、はっきり言ってあれが限界です。前半から思い切り突っ込むという、他人からすれば無謀とも思えるような自分のスタイルを、最後の最後まで貫いた走りができたのは、タイム以上に得るものがありました。

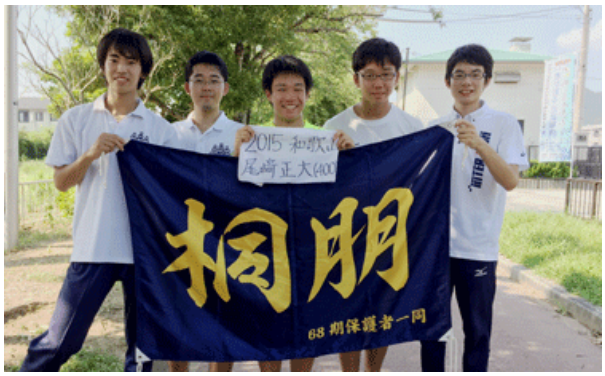
ここに辿り着くまで、何度も試合で失敗したり、１００分の何秒を削り出すために何時間も何週間も何か月も練習したりと、決して楽なことばかりではありませんでした。ただ、そんな困難を感じるのは、陸上競技に真摯に真正面から向き合えたからこそだと思います。練習が嫌いで、向上心もなく、ただ一人で結果を求めていた中学時代とは違い、ここまで本気で陸上に取り組めるようになったのは、桐朋の部員、顧問の先生方のおかげでしかありません。偶然とも言える出会いの中で、常に自分の活躍を期待してくれる環境に身を置いて競技できたことが、本当に嬉しくてたまりませんでした。

長々と書いてきましたが、そろそろ終わりにしようと思います。最後になりますが、今日まで自分を支えてくれた桐朋陸上部のメンバー、ＯＢ、顧問の先生方、応援してくれた他校の友人たち、一生に苦楽を共にした他県の４００ｍランナー・・・、書き出すと本当にきりがありませんが、本当に感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。では皆さん、またいつかどこかで会いましょう。

石川　遼

決勝記録なしのインターハイ
厳しい現実と向き合うことになった石川選手

私は今回で二回目となるインターハイに出場しました。予選では始めの高さを三本目でクリア、正直何故ここで追い詰められなければならないのか、不安と苛立ちを隠せませんでした。その後の2m00、2m03はどちらも一本でクリアし決勝進出を決めました。しかし決勝では始めの高さを三本連続で落とし、あっけない終わり方をしました。しばらく現状が理解できませんでした。悔しさよりも疑問しか頭に浮かばず、事実をすぐには受け入れられませんでした。今思うと、最後の最後まで調整が間に合わなかったのだと思います。調子が悪かった訳でもなく、ただただ頂点が合わなかった。もちろんそれだけが理由ではありませんが、そこさえあっていれば入賞も可能だったと思うと、今でも悔しくて気が狂いそうです。

こうして私の高校陸上生活は終わりました。結局私は自分が立てた目標を達成できませんでした。しかし、私はこの三年間は決して無駄ではなかったと自信を持って言えます。この三年間に、私は試行錯誤する楽しみと努力の大切さを知りました。加えて、陸上部の仲間との友情を育むことが出来たこの三年間は、私の高校生活でかけがえのない思い出であるといえます。私は多くの仲間に支えられてインターハイの舞台に立つことができました。和歌山まで応援に来てくれたみんな、今まで共に練習し応援してくれたみんな、本当に有難う。

また、五年に渡り私に走高跳を一から指導して下さった外堀先生、公私に渡り相談に乗って下さった有村先生、宮下先生、多くの先輩方、応援してくださった保護者の皆様、本当に有難うございました。これからの桐朋陸上部のさらなる活躍を期待しています。がんばれ!!応援しているぞ!!